

令和6年度 自己評価表

愛媛県立北条高等学校

学校番号 (19)

教育方針	多様性を尊重し、総合学科の強みを最大限に生かした教育活動の中で、未来を創る人材を育成する。	重点目標	Iの力を伸ばし、Weの世界を広げよう —「人」を想い、自分を磨く—
------	---	------	--------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善策
学習指導	教科指導の充実	授業公開週間等を利用し、年2回以上相互授業参観を行い、授業改善に努める。また、学校訪問研修、教育センター研修に積極的に参加する。 A:4回以上 B:3回 C:2回 D:1回 E:0回	B	相互に授業参観をし、自己の授業改善に努める教員が多数を占める一方で、授業公開週間にも全く参観していない教員もいる。教育センター研修への参加はなかった。	授業公開週間や研究授業の参観は年2回以上、学校訪問研修や教育センター研修だけでなく、教育委員会主催以外の高教研部会等の研修も含めて積極的参加を呼び掛ける。
		生徒による授業評価を年2回、保護者による授業評価を年1回実施し、「分かる授業」を目指す。	A	生徒、保護者による授業評価を実施した。授業改善については、教員の25%が「できた」、75%が「改善を目指し工夫している」と回答している。	引き続き、生徒、保護者による授業評価を実施し、教員は授業改善に努める。評価結果の課題を教科で共有し、協調した取組が実現できるよう促す。
	家庭学習の充実	1日3時間以上の家庭学習時間を確保させ、家庭学習の習慣化と質の向上を図る。 A:3時間以上 B:2時間～2時間59分 C:1時間～1時間59分 D:30分～59分 E:29分以下	A	第1回家庭学習時間調査では平均2時間57分、第2回では平均3時間10分であった。	家庭学習時間を増加させるとともに、生徒が自分自身の進路を真剣に考えた学習スタイルを確立し、主体的に学習に取り組むことができるように支援する。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	校訓を念頭に自分と学校に「自信と誇り」を持てるように基本的生活習慣の徹底を図る。行事等の機会を捉え、身だしなみの徹底を図る。	B	遅刻や指導の重なる生徒が見られた。指導に対しては素直に従うことができるが、自主的な行動に結びつかない生徒がいる。	規範意識を高めるためにも「是は是、非は非」という観点は崩さないように指導していきたい。
	問題行動未然防止	指導方針を明確にし、組織としての対応を心掛けることにより、問題行動を未然に防止する。	A	保護者の価値観や親子関係の多様化に苦慮したが、教職員間で連携を取りながら、指導方針の明確化を図ることができた。	担任・年次と更に連携・協力を図り、組織としての指導体制を強化する。緊急連絡の在り方・体制についても考慮する。
		生徒理解のため年間6回以上の個人面談を行う。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	A	日頃から生徒と積極的にコミュニケーションを図りながら、信頼関係を深めることができた。面接指導週間等を通して担任と副担任、年次団が協力して年間6回以上個人面談を行い、複数の教員が生徒に向き合う姿勢作りができた。	生徒と積極的にコミュニケーションを図り、進路面、生活面において、より協力的な関係構築を図る。年次会等を通して情報を共有し、多方面から支援する体制を作り、生徒一人一人を大切にしながら、集団としての質を高めていく。
進路指導	進学指導の充実	組織的な面接・小論文指導を充実させ、総合型選抜・学校推薦型選抜における志望校合格率100%を目指す。また、一般入試に対応できる学力を身に付けさせる。 A:90%以上 B:80～89% C:70～79% D:60～69% E:59%以下	A	3年次の進学希望者への面接・小論文指導に関しては、9月初旬の進路実現講座など、組織的に行った。その結果、総合型選抜・学校推薦型選抜において、のべ49人の内47人が合格した。合格率は95.9%であった。	小論文指導に関しては夏休み前の7月から個人指導を行える体制を目指す。面接指導に関しては進路実現講座ワークシートの有効的な活用方法を確立する。
	就職指導の充実	進路ガイダンス、面接指導等を効果的に連動させ、学校紹介による就職内定率100%を目指す。また、就業後のミスマッチを防ぐため、相談体制を充実させる。 A:100% B:90～99% C:80～89% D:70～79% E:69%以下	A	3年次の就職希望者への指導に関しては、2年次後半から指導してきたことが実り、就職希望者20名の内20名が内定を決めた。また就業後のミスマッチを防ぐために希望者を対象に職場訪問も行った。	進路ガイダンス、面接指導、就職セミナー、就職模試などを連動させることで、確実に就職内定率100%を達成させる。ミスマッチを防ぐために、担任及び課員との面談、企業研究や応募前職場見学を確実にに行わせる。また就職後のケアも連絡を取りながら行う。
人権教育	人権意識の高揚	いじめの未然防止のために、状況把握や情報共有がスムーズにできる協力体制を作る。また、様々な啓発活動を実施し、生徒の人権意識を高める。	A	いじめの未然防止のために、アンケート結果の確認を行い、情報交換を密にして対応することができた。人権委員会を中心に人権意識向上につながるさまざまな啓発活動を充実させることができた。今年度は松山県学校・松山盲学校との交流学習を実施し、北条ブロック人権教育研究大会では本校人権委員会の活動報告も実施した。	いじめの未然防止につながる状況把握や情報共有を継続し、小さなことを見逃さない体制づくりを行う。いじめは重大な人権侵害であり絶対に許されないという意識定着のために、更なる人権意識向上を目指す。人権委員会の活動をより活性化し、主体的な活動を展開したい。
		生徒の主体的な活動を通して、人権・同和教育ホームルーム活動の内容を充実させる。	A	人権・同和教育ホームルーム活動では、各クラスで真剣な取組が継続できており、学びを通して人権意識の高揚がみられた。	人権・同和教育ホームルーム活動が充実するような働き掛けを継続し、この学びが今後の生活で生かされ、正しい判断や行動が取れるよう支援する。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

自己実現の支援	進路意識の醸成	「産業社会と人間」「総合学習」「総合研究」を中心とした学習活動を推進することにより、総合学科での学び満足度100%を目指す。 A:90%以上 B:80～89% C:70～79% D:60～69% E:59%以下	A	「産業社会と人間」「総合学習」「総合研究」「進路実現講座」をほぼ予定通り行うことができた。3年次生の進路実現に向けての取組の自己評価において、「大変良かった」「良かった」の合計は91.2%であり、6年連続で90%を超えた。	来年度の「産業社会と人間」「総合学習」「総合研究」について生徒の実態に合った内容に改善できるように、キャリア教育推進委員会等での意見を基に計画を立て、調整を行っている。特にインタビューシートの在り方と総合研究の質の向上について改善を目指す。
	図書館教育	「朝の読書」、調べ学習、読書啓発活動を通して読書習慣の定着を図り、年間貸出冊数600冊以上を目指す。 A:500冊以上 B:400～499冊 C:300～399冊 D:200～299冊 E:199冊以下	B	3年次は「朝の読書」の習慣が身に付いている。1、2年次は言葉掛けをすることで取り組めた。学級文庫をより利用する姿があった。一部の生徒が好きな作家の本を続けて読むなどしているが、年次が上がるにつれ図書館利用が減る傾向にある。	年次が上がるにつれ図書館利用が減少するのは物理的距離も関係しているが、生徒の読みたい本がすぐに検索できないことにも原因があるものと考えられる。図書資料を整理し、資料を探しやすい配架にするとともに新しい資料を適時購入するなど生徒の要望に応える図書室にしたい。
	部活動の活性化	部活動加入率85%以上で活気ある部活動を実践する。 A:85%以上 B:80～84% C:75～79% D:70～74% E:69%以下	B	部活動加入率は目標値を超え86%ではあるが、部活動への参加ができない生徒も少なくないのが現状である。部員数も減少しており、活気ある部活動にするためには更なる努力が必要である。	体験入部や部登録までの期間を有効に活用する。転退部者の追跡調査等を行うなど、他の部活動顧問、担任等が連絡を密にし、活気ある部活動を目指す。
	資格取得の推進	県大会、四国大会、全国大会の出場10部以上を目指す。 A:10部以上 B:7～9部 C:5～6部 D:3～4部 E:2部以下	B	運動部ではなぎなた部、レスリング部、アーチェリー部が全国大会へ出場することができた。県下においても合同チームが認められたことにより、今までは違った活動、運動が生じた。文化部においては吹奏楽部を中心に地域と連携した様々な活動を積極的に行うことができた。	次年度へ向けて、なぎなた部、アーチェリー部、レスリング部が全国選抜大会の出場権を獲得するなど明るい話題はある。部活動編成についても検討し、今までは異なる部活動の在り方について再考しながら生徒たちのニーズに合った部活動の発展を目指したい。
	教育支援の充実	資格取得へ積極的に挑戦する意欲を持たせ、より高い合格率を目指す。また、上級資格への挑戦意欲を高める指導を行う。	A	()内の数字は取得人数。全商会計実務検定1級(1)、全商商業経済検定1級(8)、全商ビジネス計算実務検定電卓1級(4)、全商ビジネス文書実務検定1級(2)、全商情報処理検定1級ビジネス情報(3)、全商ビジネス計算実務検定電卓1級(普通計算)(7)、全商ビジネス計算実務検定珠算1級(1)、全商簿記実務検定1級(4)、全商ビジネス文書検定1級(1)、全商ビジネス文書実務検定1級(ビジネス文書)(1)、全商ビジネス文書実務検定1級(速度)(1)、全国高等学校家庭科被服製作技術検定1級(洋服)(2)、全国高等学校家庭科被服製作技術検定1級(和服)(2)、全国高等学校家庭科食物調理技術検定1級(1)、全国高等学校家庭科保育技術検定1級(造形表現技術)(2)、全国高等学校家庭科保育技術検定1級(家庭看護技術)(2)、社会福祉・介護福祉検定1級(3)	進路実現につながる資格を取得する生徒を多く育てるとともに、上級資格への挑戦意欲を高め、1級の資格取得を目指す指導を継続して行う。
開かれた学校づくり	保護者との連携強化	PTA会員相互の親睦や信頼関係作りを通して、無理なく参加しやすい運営に努める。PTA総会については、校内での協力体制を整え、内容を充実させる。	A	アンケート結果や気になる生徒との面談についての情報共有を図った。スクールライフアドバイザーの所には、自分の思いを聞いてもらうために定期的に来る生徒、子供との関わり等を相談するために来校する保護者がいて、それぞれが解決の糸口を探すためのサポートができた。	学校生活を充実させるために、継続した支援を続けなければならない。そのためには、いろいろな場面での対話やコミュニケーションを大切に、個々の生徒それぞれに向き合い、その思いを受け止め共有できる環境づくりを行う必要がある。また教職員研修も開催したい。
	国際教育活動の充実	ALTとのチームティーチングを充実させ、コミュニケーション力と国際理解の向上に努める。国際理解教育関連の指導の充実を図るため、講習や研修会に参加する。	A	PTA総会については、担任によるホームルーム活動や授業に関する展示など校内での協力を得ることができた。保護者による学校教育活動評価の項目も評価が上昇している。	今後、活動内容を検討・精選し、会員相互の協力・連携を充実させるとともに、校内での協力体制を整える。
	教育活動情報の公開	ALTとのチームティーチングを充実させ、コミュニケーション力と国際理解の向上に努める。国際理解教育関連の指導の充実を図るため、講習や研修会に参加する。	A	ALTが常時勤務となり、チームティーチングは全年齢合わせて1日平均3時間行った。教科書の内容に加えて、外国の文化や料理などについても取り扱い、国際理解を深めた。	ALTとのチームティーチングにおいては事前の打ち合わせを念に行い、授業の内容が充実したものになるように努めていく必要がある。授業の他に生徒とALTが関わられるように、活動を工夫する。
	地域との連携促進	教育活動やその成果を積極的に開示するため、ホームページにおいて最新の情報を更新し提供する。	A	ホームページに学校行事だけでなく教育活動全般について掲載した。	学校アビールにつながるような内容をホームページへ積極的にアップし、本校に興味・関心を持ってもらえる機会を増やす。
	大学等との連携促進	地域行事やボランティア活動に主体的に参加し、積極的に地域との交流を図る。年間に生徒1人が1回以上のボランティア活動を行う。	A	高大連携として、生徒会を中心に互いの文化祭で出店したり、愛媛マラソンには、吹奏楽部、ボランティア生徒、教職員を含めて約100名が参加し、協力することができた。	愛媛マラソンへの協力は学校としての取組となりつつあり、次年度も引き続きしていきたい。吹奏楽部、なぎなた部をはじめ地域行事にも積極的に関わられるよう連携を取ってきたい。
保健・安全管理	安心・安全な教育環境の充実	大学等の授業・施設利用体験、学生と生徒の交流等を各年次1回以上行う。事業所訪問、インターンシップにおいて30か所以上の事業所との連携を行う。 A:30か所以上 B:25～29か所 C:20～24か所 D:10～19か所 E:9か所以下	A	1年次「地域に生きる人々に学ぶ」5講座、「企業・大学等訪問」5か所、2・3年次「出張授業」11講座を行うことができた。進路意識の醸成につながった。共育型インターンシップは19事業所で行うことができた。また全年次に希望者を募って愛媛大学社会共創学部の先生に出張授業を実施していただいた。	来年度も「地域に生きる人々に学ぶ」「出張授業」「企業・大学等訪問」「インターンシップ」等、上級学校や事業所との連携を予定している。
	安心・安全な教育環境の充実	生徒一人一人の交通安全への意識の高揚を図り、交通事故・違反ゼロを目指す。また、ヘルメット着用の徹底を図る。	B	自転車事故が4件発生した。うち1件は自転車が多損である(バイクの信号無視が原因)。スマホに関しては、目的外使用で指導した件数は13件あった。いずれも認識の甘さや気の緩みによるものであるが、もう一度スマホとの関わり方について生徒に問い掛ける必要がありそうだ。スマホ安全教室の実施だけでなく、様々な場面で呼び掛けることで生徒の意識を高める必要性を感じたい。	緊急連絡用の手段であることを徹底させるとともにスマホの利用に関して、届け出制による持ち込み許可の条件を今一度生徒に確認する予定である。また、情報モラルの教育にも力を入れていきたい。登下校については、時間を厳守する習慣作りを行うとともに、不審者に対する注意喚起を徹底し、安全な登下校をさせるよう、あらゆる局面で生徒に注意喚起を行ってきたい。
	安心・安全な教育環境の充実	安全点検を年間5回実施し、安心・安全で清潔な施設や設備の整備に努める。また、防災避難訓練については予告なし訓練も実施した。	A	安全点検を5回実施できた。不具合は適宜修繕し、安心・安全に施設や設備の管理ができるよう努めた。防災避難訓練は予告なし訓練も実施し4回実施した。危機意識の向上を図ることができた。	施設の老朽化により、すぐに修理改善できないところもあるが、事務課と連携して、取り組みたい。地域、自主防災会やカトリック大学と連携した防災避難訓練などが今後できればよい。
改善業務	職場の環境改善	心身の健康の保持増進を図り、健康で活力ある生徒を育てるため、保健指導・健康相談の充実に努める。また、感染症予防、適切な環境衛生の維持管理に努める。	A	配慮が必要な生徒等について、ケース会議を開催したり、今年度から派遣されたことになったSSWを活用することで、関係教職員の共通理解を図ることができた。また、学校医・学校薬剤師等と連携し、学校環境衛生の維持管理に努めることができた。	配慮が必要な生徒について、今後も継続して教職員の共通理解を図り、丁寧な対応をしていきたい。また、生徒が心身ともに健康に過ごすことができるよう、保健指導や健康相談の充実に努めていきたい。
	職場の環境改善	業務の効率化や各種制度の活用を通して、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	定時退勤日の呼びかけ等を行い、ライフ・ワーク・バランスの実現を促進した。また、トラブルなどの情報をいち早く共有し、解決に向けた相談体制を構築することに努めた。	教職員の身体的、精神的な負担を少しでも軽減できるよう、今後も継続して、休暇取得の促進や問題の共有化を図ってきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。